

- 1869年 スーダン西部、南ダルフール地方のオルゴッサ村にて誕生
- 1876年 アラビア人にさらわれ、その後、奴隷商人に売り飛ばされ過酷な奴隷生活を送る
- 1885年 イタリア副領事に買い取られヴェネツィアへ
- 1889年 奴隷生活が終わる
- 1890年 ヴェネツィア大司教アグスティニ枢機卿より洗礼・堅信・聖体の秘跡を受ける
- 1896年 ヴェローナ・カノッサ会母修道院にて修道誓願宣立
- 1947年 スキオ修道院にて帰天。
- 1992年 列福
- 2000年 列聖



祈りましょう。

聖ジュゼッピーナ・バキータ、あなたは、わずか7歳で誘拐されて奴隷として売られ、残酷な主人たちからひどい苦しみを受けてきました。やがて、あなたは、人間ではなく、神こそがすべての人間の、また、すべての人生の主人であるという深い真実を理解するようになりました。

聖ジュゼッピーナ・バキータ、父である神の愛を知らず、自分の尊厳を守ることのできないすべての人のとりなし手となってください。

囚われの身となっている鎖が断ち切られるように、憐れみ深い神に取り次いでください。

神ご自身が、現代の人身取引といわれる鎖によって脅かされ、傷つき、不当な扱いをされているすべての人を解放してくださいますように。

不当な束縛から解放された人々に慰めがもたらされ、かれらの傷が癒され、イエスを希望と信頼をもって見つめることができるよう導いてください。

わたしたちが周囲に生じている出来事に対して無関心に陥らず、目を開き、尊厳と自由を奪われた多くの兄弟姉妹の悲惨さと傷を見ることができるよう。

そして、助けをもとめる人々の叫びを聞くことができるように、わたしたちのために祈り、とりなしてください。

わたしたちの主、イエス・キリストによって、アーメン。

2月8日聖バキータの記念日にあたり、

この日を女子修道会国際総長会議(USIG)は

「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」としました。

教皇フランシスコも共に祈りと行動を呼びかけておられます。



教皇フランシスコは、昨年この祈りのために、こう呼びかけられました。

「たとえ私たちが見ないふりをしているも、奴隷制度は過ぎた昔の事とは言えません。この悲劇的な現実を前に、何らかの形で、人類に対するこの犯罪の共犯者とならないためには、誰一人それを見過ごすことはできないのです。今日、おそらく以前より多くの隷属状態が世界に存在する事実を、無視することはできません。祈りましょう。人身売買や、強制売春、暴力の被害者たちが、寛大に受け入れられますように」



私たちもこの呼びかけに応え、

まずは日本で起きている現代の人身取引問題に目を向け、真剣に被害者のために祈りましょう。そして、この問題を撲滅していくことを目指し、私たちに何ができるのかを考える日にしましょう。

例：外国人技能実習生の一部の人たちは、不当な労働環境や劣悪な住環境、虐待、強制帰国の脅しなどに耐えながら、奴隷状態で働いています。だまされて入国し売春を強要される外国人女性もいます。

例：日本人の女子高生や若い女性たちを狙った性的搾取など

*他にもあると思います。この機会に、具体的に調べてみてはいかがでしょうか。